

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.1

1 事業名 : さあ のはらへいこう 里山を歩こう事業

2 実施団体名 : NPO法人 吉備野工房ちみち

3 協働担当課 : 福祉振興課子育て支援班

4 事業概要

本事業は、子どもの健やかな育ちに必要な自主性や体力、想像力などを大人が阻害していることが多々ある現状を鑑み、大人が子どもの育つ可能性を知り、大人の役割を考えるきっかけを提供すること、及び、人の生活に必要な不可欠な自然との共生を親子で体験することにより、個々のもつ力を発揮しやすい環境が広がり、自然の恵みや生活、子どもの遊びやコミュニケーションを改めて考える人が増え、社会全体が子どもの育ちに関して意識変化をし、子どもが個々の能力を最大限に発揮して健やかに育つことを目的として、青空保育の映画鑑賞会、講演会、里山歩き体験を実施し、一般向け冊子を作成する。

5 事業の流れ等

(1) 映画試写会 総社市・高梁市 各1回

(2) 映画鑑賞会「さあ のはらへいこう」

第1回 平成26年9月23日(火・祝)午前

倉敷市マービーふれあいセンター

参加者: 大人17名、大学生3名

第2回 平成26年9月23日(火・祝)午後

倉敷市マービーふれあいセンター

参加者: 大人50名、大学生2名

第3回 平成26年9月28日(日)

高梁市吉備国際大学13号館

参加者: 大人30名、大学生6名

(3) あおぞら自主保育主催者の講演会

平成26年9月23日(火・祝)

倉敷市マービーふれあいセンター

参加者: 大人41名、大学生2名

(4) 体験プログラム(子どもは山を冒険・大人は手作り体験)

- 第1回 平成26年11月9日(日)
高梁市宇治町宇治地域市民センター
参加者 親4名、子ども10名(里山歩き参加は9名)
- 第2回 平成26年11月15日(土)
総社市昭和公民館水内分館
参加者 親5名、子ども12名(里山歩き参加は10名)
- 第3回 平成26年11月23日(日)
総社市昭和公民館水内分館
参加者 親7名、子ども12名(里山歩き参加は10名)

(5) 報告書の作成、配布

平成27年2月 300部作成
教育委員会、子育て支援施設等に配布

6 成果・効果

(1) 映画上映会・意見交換会・講演会

- ・参加者の満足度は「満足・ほぼ満足」で100%だった。
- ・「子どもが小さくても他者のお世話をすることに驚いた」「環境により子どもは得ていくことが変わっていく。できれば自然の中で子ども同士の関係を大切に育てたいと思った」という感想により、大人が子どもの力を改めて知ったのではないかと思われる。
- ・映画鑑賞後の少人数での話し合いは意見や自分の現状・社会の状況などで話が盛り上がり、時間が足りないほどだった。
- ・子育て中の親からは「子どもとの接し方、子どもの力を発揮できる環境について考えを改めたい」という感想があり、親の役割などを考えるよい機会になったと思われる。

(2) 体験プログラム

- ・参加者の満足度は「満足・ほぼ満足」で100%だった。
- ・子どもが自信に満ちた顔で生き生きしていたし、積極的に友達と接していた。また新しいことへの挑戦を楽しんだり、お母さんの手作りのねじり菓子やうどんに興味を持ち、おいしく食べて喜んでいたのが印象的である。
- ・子どもが喜んでいる姿を見て、大人が喜んでいた。
- ・山歩きや手作りの体験により、興味を持っている親子が増えた。
- ・親が子どもと離れて楽しむことにより、気持ちが和らいでいた。
- ・地域の方が地域の活動や個人のもつ手作りの技に興味を持つようになり、そのことで、若い家族との交流ができたり、子どもたちと触れあえること

を喜ばれていた。

(3) 報告書の作成、配布

- ・配布後の反応の把握は難しいが、社会全体が子どもの育ちに関して意識変化をし、子どもが個々の能力を最大限に発揮して、健やかに育つことができる環境づくりのヒントになればと思う。

7 今後の課題等

- ・参加者は、子どもの環境に関心を持っている人がほとんどであり、そこから少しずつでも子どもの育ちや遊びに興味を持つ人が広がるように発信を続けていきたい。
- ・すべての子どもに力があり、「よいところ」を他者が褒めたり、親が実感できる場が必要だと思った。
- ・色々な世代の人が1つの話題で話をしていくことは有意義で、子どもの育ちを考える場、市民が話し合える場の必要性を感じた。
- ・今回の事業を通じて、参加者・行事や広報活動の協力者・県民局等と新たなつながりを得ることができた。こうしたつながりを大切にしながら、小さな活動の紹介や地域や参加者主体の活動が広がるよう支援していきたいと考えている。自然の恵みと共に丁寧に生活すること、子どものみならず個人の力が発揮しやすい環境が広がるよう今後も活動を進めていきたい。

8 実施状況

	
映画鑑賞会 (マービーふれあいセンター)	意見交換会



あおぞら自主保育主催者の講演会



講師と記念撮影



道なき道をのぼっていく子どもたち
里山体験：総社市水内地区



みんなで登ったよ～記念撮影



お母さんは手打ちうどん作り
総社市水内地区



みんなでうどんをいただきました

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.2

1 事業名 : 地元の食材を使ったお料理広場による子育て応援事業

2 実施団体名 : よりはぐプロジェクト

3 協働担当課 : 福祉振興課子育て支援班

4 事業概要

東日本大震災により避難・移住された方々および地域住民が、子育ての不安や悩みを共有して、ほっとリラックスできる機会・場が不足していること【子育ての孤立化】と、将来、親になる若い世代が子どもやその親とのふれあいを体験する機会が日常の中にあまりないことで、親になったときの不安やとまどいを抱えやすいという地域課題を解決するために、地元の食材を使ったお料理広場を託児つきで、地域のボランティアを発掘しながら実施するとともに、効果を実施マニュアルとして活用し、来年度以降も、地域ぐるみでの子育てを応援する環境づくりの推進に努めていくことを目的として、実施する。

5 事業の流れ等

(1) 倉敷市説明会

平成26年6月25日(水) 倉敷南公民館和室

参加者: ボランティア5名

(2) 倉敷市お料理広場 場所: 倉敷南公民館 調理室・和室

① 平成26年7月2日(水)

参加者: 大人 13名(避難者3名)、子ども 11名

ボランティア 7名(大人)

② 平成26年9月17日(水)

参加者: 大人 8名(避難者1名)、子ども 10名

ボランティア 4名(大人)、3名(学生)

③ 平成26年10月15日(水)

参加者: 大人 11名(避難者1名)、子ども 10名

ボランティア 4名(大人)、2名(学生)

④ 平成26年11月5日(水)

参加者: 大人 7名(避難者0名)、子ども 7名

ボランティア 3名(大人)

- ⑤ 平成26年12月3日（水）
参加者：大人6名（避難者0名）、子ども 6名
ボランティア 2名（大人）
- ⑥ 平成27年1月27日（火）
参加者：大人6名（避難者0名）、子ども 7名
ボランティア 3名（大人）、2名（学生）
- ⑦ 平成27年3月18日（水）
参加者：大人8名（避難者0名）、子ども 10名
ボランティア 5名（大人）、2名（学生）

(3) 矢掛町説明会

平成26年9月23日（火・祝） 矢掛町農村環境改善センター和室

参加者：ボランティア 1名（大人）、4名（学生）

(4) 矢掛町お料理広場

- ① 平成26年9月28日（日）
矢掛町農村環境改善センター調理室・和室
参加者：大人9名（避難者0名）、子ども 17名
ボランティア 0名（大人）、3名（学生）
- ② 平成26年11月12日（水）
矢掛町健康管理センター調理室・和室
参加者：大人4名（避難者1名）、子ども 4名
ボランティア 0名（大人）、0名（学生）
- ③ 平成27年3月1日（日）
旬家ファーム 東三成集会所
参加者：大人8名（避難者7名）、子ども 7名
ボランティア 2名（大人）、2名（学生）

(5) 浅口市説明会 → 台風のため中止

(6) 浅口市お料理広場

- ① 平成26年10月26日（日）
寄島東公民館 調理室・和室
参加者：大人10名（避難者5名）、子ども 13名
ボランティア 2名（大人）、1名（学生）
- ② 平成27年3月8日（日）
金光公民館 調理室・和室
参加者：大人6名（避難者2名）、子ども 6名
ボランティア 3名（大人）、3名（学生）

6 成果・効果

- ・実施後のアンケートでは「とても楽しかった、楽しかった」が全体で90%だった。
- ・ボランティアで託児に参加してくださった方も、「顔見知りのお子さんも増えてきて、成長を見ていくことができている」「皆さんがとても熱心に子どもさんに対応しているところ、がんばっている姿に感動しました」との感想だった。
- ・子育て応援ボランティアの発掘・育成ができた。
- ・子どもと接することの少ない若い世代（中・高・大学生等）に、子育てを学ぶ機会の提供ができた。
- ・震災避難者と地域住民との交流促進を図れた。

7 今後の課題等

- ・倉敷市中心部と浅口市・矢掛町での子育てについての意識・環境の違いが大きく、ニーズの差があると感じた。矢掛地区ではそのニーズの把握が大切だと思った。
- ・当初予定していた、地域の子育てサークルとの連携ができなかった。
- ・【倉敷地域】
核家族の子育て世代が多いため、託児付きのイベントや一時預かりなどのニーズが高い。気軽に子どもを連れて行ける場所・参加できるイベントが求められている。
- ・【矢掛地域】
地縁があるので矢掛に住んでいるという子育て世代が多いため、託児よりも子どもと一緒に料理をしたいというニーズが高かった。人の繋がりの濃い地域性で、来られた方たちのほとんどが知りあいだった。
- ・【浅口地域】
避難者と地元の子育て中のお母さんがバランスよく参加され、小学生以上の子どもがいる方が多かった。子どもと一緒に料理をしたいが、なかなか家ではできないので、楽しく一緒に子どもと料理ができたことが楽しかったという意見が多かった。

8 実施状況



事前説明会（倉敷市）



倉敷地区第1回



みんなで食事（倉敷）



矢掛地区第1回



矢掛地区の中高校生ボランティア



浅口地区第1回

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.3

- 1 **事業名** : 備中の文化である綿で玉島の町を白く埋め尽くし、復活、伝承、定着をはかる
- 2 **実施団体名** : 特定非営利法人 NPO法人備中玉島観光ガイド協会
- 3 **協働担当課** : 地域づくり推進課振興班
- 4 **事業概要**
 - ・ ボランティア観光ガイドが主目的であるが、平成21年度の観光客激減に対応し観光客誘致に備中綿を戦力として取り組んだ。
 - ・ 全国に向けネットや、新聞、書物などを通じて備中玉島の宣伝を行っている。
 - ・ 結果として案内した観光客は平成21年度→26年度で309%となった。
 - ・ 玉島に推定3,500本くらいの綿があるが（NPO法人備中玉島観光ガイド協会では1,000本）、波及効果として、耕作放棄地の取り組み、耕作ミカン園への取り組み、身障者団体を中心として支援など効果を上げている。
 - ・ 出前講座を中心に子どもたちに将来の玉島を託する希望の活動をしている。
- 5 **事業の流れ等**
 - ・ 倉敷市玉島円通寺前の耕作放棄地に1,000本の綿を植えた。
 - ・ 今年から新品種アップランド種を加えた。
 - ・ 5月・植樹祭→岡山県連合OBの参加（8月鑑賞会・9月収穫祭で行った）。
 - ・ 写真コンテストを行った（40点の応募）。
 - ・ 1月24、25日→備中玉島綿あそびイベントを行った（参加者370名）。
 - ・ 地元、高校、小学校の出前講座を行った。
 - ・ 公民館、図書館などで講座を行った。
- 6 **成果・効果**
 - ・ ご案内した観光客が平成21年度比309%になった。
 - ・ 綿の紬菓が完成した。
 - ・ 玉島円通寺CottonRoadの作業時間を平成25年度420時間→320時間まで短縮した。
 - ・ 各地から玉島円通寺CottonRoadの見学者が増えた。

7 今後の課題等

- ・平成27年度から補助金がなくなるため、さらなるコストダウンと販売に力を入れる。
- ・労働集約型で通期の作業なので後継者育成が一番の問題であり、視点を変えて取り組む。

8 実施状況

	
綿畑・玉島円通寺 CottonRoad	収穫祭
	
出前講座	備中綿の歌・玉島混声合唱団
	
「綿 no 紙」で描いた絵	綿の油葉を施した茶碗

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.4

1 事業名 : 備中・町家クラス (備中地域の歴史的建築物を活用した暮らしの体験事業)

2 実施団体名 : NPO法人 倉敷町家トラスト

3 協働担当課 : 地域づくり推進課市町村連携班

4 事業概要

備中地域に多く残る町家を活用し、町家における衣食住の暮らし等を体験する様々なプログラムを開発の上、参加者に体験してもらう事業を実施する。

5 事業の流れ等

(1) 開催期間

11月21日(金)から30日(日)までの10日間

(2) 開催場所

備中地域全域(倉敷美観地区及び周辺、児島下津井、玉島、鴨方、高梁市本町、吹屋、総社、矢掛、新見)

(3) 参加者数

総参加者464名(講師、スタッフ、見学者等含む。)

うち、プログラム参加者数286名

(4) プログラムの概要

① 開発プログラム数 26種

※ 26種のプログラム中、2種は都合により開催を中止したため、実際に参加者があったプログラムは24種

② 主なプログラム名等

- ・男の着付け教室(倉敷美観地区 楠戸家)
- ・昭和の町家暮らし奮闘記(倉敷美観地区周辺 昭和町N家)
- ・～入門編～盆栽の楽しみ方教えます(鴨方 かもがた町家公園)
- ・備中のおやつ・おばあちゃんをつくる けんびき焼き(吹屋 旧水野旅館)
- ・町家で手仕事WORK・ワク(総社 旧堀和平邸)
- ・季節の練りきりと法曹茶を味わう(新見 太池邸) など

6 成果・効果

- ・今回初めて開催された事業であるが、備中地域に多く残る町家等を活用したプログラムの開発及びその実施を通じ江戸、明治、大正、昭和から平成に伝わる、地域の伝統的な生活文化の魅力を参加者に伝えることができた。
- ・アンケート結果では、9割以上の参加者がプログラム内容に非常に満足したと回答しており、その他マスコミにも多く取り上げられるなど、完成度の高い事業となった。
- ・また事業の実施を通じて、備中地域の町並み保存・活性化団体の連携が深まり、ネットワーク化の推進を図ることができた。

7 今後の課題等

- ・事業を継続的に実施するためには、財源の確保に努める必要がある。今回、参加者から負担金を徴収したが、財源として十分ではない。
- ・今後、継続的な事業とするため、より魅力的なプログラムの開発及び実施に努める必要がある。

8 実施状況

	
<p>事業パンフレット</p>	<p>男の着付け教室</p>
	
<p>昭和の町家暮らし奮闘記</p>	<p>備中のおやつ・おばあちゃんをつくる けんびき焼き</p>
	
<p>町家で手仕事WORK・ワク</p>	<p>季節の練りきりと法曹茶を味わう</p>



平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.5

- 1 事業名 : 備中地域における教育現場での和楽器と邦楽の普及度の実態調査
- 2 実施団体名 : 一般社団法人倉敷未来機構
- 3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

備中地域の地域活動・経済活動・教育現場における邦楽の普及状況（和楽器の有無、和楽器を利用した活動の有無等）の実態調査を行うとともに、日本を代表するプロ奏者が、学校及び地域の伝統的な音楽活動に関わることによる好循環な環境を創出するためのモデル事業を実施する。

5 事業の流れ等

(1) ビジョン委員会

内容：地域委員・専門家委員による各種事業の意見交換・報告

開催：6/6、7/9、9/26、1/23、2/18 (延べ40名参加)

(2) 学校向けアンケート調査

内容：備中地域の教育現場における和楽器及び邦楽の普及度を調査するため、412校にアンケート調査を実施

(3) 学校訪問ワークショップモデル事業

内容：プロ奏者を招いての指導・コラボ演奏

清心中高箏曲部 7/14、8/25、9/6、9/7

倉敷支援学校 1/22

(延べ222名参加)

(4) 市民参加型ワークショップモデル事業

内容：公募による参加者が、プロ指導者や演奏者の指導を受けながら備中地域の歴史や文化、人物などの物語や史実に基づくオリジナル脚本を作り、音楽劇を実演するワークショップを開催

開催：11/19、11/20、12/10、12/11、1/18、1/21、1/22 (延べ85名参加)

(5) 成果報告会

内容：学校訪問ワークショップモデル事業及び市民参加型ワークショップモデル事業の成果発表 (80名参加)

日時：平成27年2月18日 18:30～20:00

会場：倉敷新溪園

6 成果・効果

(1) ビジョン委員会

- ・各委員からの実践報告と共に、多様な視点からのコメントを頂戴し、次年度以降の活動に向けて、指針を得ることができた。
- ・地域内外で活動する主体者同士の合意形成を図ることができる第一段階となった。
- ・派生的なプロジェクトを生み出すことができた。

(2) 学校向けアンケート調査

- ・学校での教育における和楽器と邦楽の取扱の実態が明らかとなった。
- ・学校での和楽器の保有と利活用の状況が明らかとなった。
- ・ワークショップや学校公演等に関するニーズが明らかとなった。

(3) モデル事業

- ・児童生徒向け、一般向け、教職員向けそれぞれの手法にノウハウを獲得できた。
- ・市民参加による地域の物語を掘り起こし、コンテンツ化するノウハウを獲得できた。
- ・音楽劇コンテンツを制作、発表することができた。

(4) 成果報告会

- ・関心の高いコア層の参加者に、活動の目的とビジョンを周知することができた。
- ・参加者が一堂に会する機会となり、次年度以降の活動への契機となった。

7 今後の課題等

備中地域7市3町における邦楽の普及展開において、多様かつ幅広い担い手のネットワーク化を推進し、連携して展開する必要がある。

また、実施したモデル事業をより発展させて実施するため、受益者からの負担金の徴収とともに、安定的・継続的な活動のための財源確保が必要である。

8 実施状況

	
ビジョン委員会	学校訪問ワークショップモデル事業
	
市民参加型ワークショップモデル事業	成果報告会
	
成果報告会	成果報告会



平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.6

1 事業名 : 「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発

2 実施団体名 : 龍の仕事展実行委員会

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

「龍の仕事展」を活用し、大学生が自己啓発力・自己教育力・地域戦略を身につけることのできる人材育成プログラムを産-官-学の連携で開発する。

(1)参加大学の拡大（新見市立短期大学、県内他大学へも）

(2)各大学を回り事前研修会を開催

(3)各企業と事前の受入プログラムを検討

(4)仕事展中のPDCAプログラムを策定

(5)経験を後の将来設計やキャリア設計に反映できるフォローアップセミナーを開催

5 事業の流れ等

4月には事前説明資料を大学へ配布。実行委員会への参加をお願いし、事業説明に大学を訪問。5月～6月で募集と事前研修を終了。学生の希望に事前研修成果を照らし合わせ、講師が担当企業のマッチングを実施。学生は7月～8月で企業訪問を行い、企業と課題を共有し、提案を行った。9月の「龍の仕事展」で企業の顔として会場で実践研修を行った。10月には成果報告会とフォローアップセミナーを開催。

6 成果・効果

(1)インターンシッププログラムの事業説明

①大学への事業説明

4月上旬には龍の仕事展2013実行委員会の大学メンバー、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、岡山県立大学、吉備国際大学、倉敷市立短期大学、川崎医療福祉大学の6大学へは本年度「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発の主旨と内容を伝え、協力をお願いを行う。なかでも、新見市の大学と企業、高梁市の大学と企業に注力をした。新見公立大学が参加してくれることによって、高梁川の本流、新見市、高梁市、総社市、倉敷市の大学連携が可能となった。

また、地元出身の学生が多く通う大学へも普及することを目的に、本年度はノートルダム清心女子大学、岡山理科大学、就実大学への協力と実行委員会への参加をお願いした。

②企業への事業説明

「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発という部分で実行委員会並びに参加企業の方々には早い内に周知していただく必要があり、5月には実行委員と昨年までの参加企業・団体へ事業概要とD-INTERNSHIPパンフをメールにて送付した。

また、新見の学生は新見の企業と、高梁の学生は高梁の企業と研修を行えるように、積極的に参加していただいている吉備国際大学の学生の為にも高梁市の参加企業を増やす必要があった。

本年度は「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発に注力したため、それ以外に参加企業の新規開拓は行わなかった。

(2) 事前研修

- 第1回 吉備国際大学 6月15日 (10名)
- 第2回 倉敷芸術科学大学 6月26日 (11名)
- 第3回 くらしき作陽大学 7月6日 (18名)
- 第4回 備中県民局 7月27日 (20名)



(3) 参加学生

マッチング前のエントリーは倉敷芸術科学大学から20名、くらしき作陽大学から18名（最終は16名）、吉備国際大学から9名（最終は8名）、新見公立大学から2名、ノートルダム清心女子大学から1名、環太平洋大学から1名、川崎医療福祉大学から1名の合計52名であった。

(4) 担当企業のマッチング

学生がエントリーシートに記入した希望企業と事前研修の評価により担当する企業のマッチングを講師3名で検討した。龍の仕事展での他大学との交流も他のインターンシップには無い大切にしたい特性である。

新見公立大学は新見の企業を担当、吉備国際大学は高梁の企業を担当とし、倉敷芸術科学大学の学生はできるだけ他大学の学生と組むように配慮した。また、倉敷芸術科学大学同士でも、学部の異なる学生が組むように配慮した。

基本的には学生が来れない日は企業側で運営することが条件であるが、それを補うためと、学生の指導、責任を負わせられないレジに一般のボランティアを8名に依頼し、毎回6~7名を常時サポーターとして配置することとした。また、出席の多い前半5日間で学生を育て、穴の空いたブースを近隣の学生にフォローさせるよう指導にあたった。

(5) 企業研修

本年度は学生たちが自ら担当する企業へアポイントを取り自力で訪問することとした。50名の学生を24の企業・団体に受け入れていただいた。

(6) 企業での課題解決プログラム

企業研修では、学生たちは企業の理念や商品知識をつけるだけでなく、「龍の仕事展」での企業の課題を共有し、提案を行い、龍の仕事展で自ら実践を行った。

(7) 龍の仕事展でのPDCAプログラム

龍の仕事展では、朝・夕とミーティングを開き、皆の前でその日の課題と目標を発表、それに対し取り組んだ成果報告を毎日行い、反省と課題解決の方向を皆で考えるPDCAサークルを回すプログラムを行った。前半は客への対応でいっぱいだった学生は数日たつと周囲にも目が向けられる様に成長し、スタッフが少ないブースの面倒まで見れるようになった。

無事、9日間で終了。述べ294名の学生が活躍した。今年の龍の仕事展は爽やかな3連休に始まり、晴れの日曜日で終わり、昨年と比べ終始暑くなく、涼しい環境で開催することができた。

来訪者からも、「会場、接客共に昨年より良くなった」との評価を多数いただき、そして、何より学生たちの頑張りが評価された。

3年間8千名台で留まっていた来訪者数も、累計11,131名の来訪者を迎え遂に初めて1万人を越えた。更に、集中レジの売上も250万弱と過去最高になり、D-INTERNSHIPの成果が数字になって表れた。

(8) 成果報告会・フォローアップセミナー

10月に予定していた報告会を熱の冷めないうちに龍の仕事展終了後翌週の9月28日に行った。また、9月に出席できなかった学生を対象に10月に2回目を実施。

① 第1回成果報告会・フォローアップセミナー

9月28日(日)、備中県民局会議棟を借りて成果発表会を行った。フォローアップセミナーでは、学生は担当した企業に就職するわけではないのだから、企業成果の報告に固執しないように注意した。企業成果もD-INTERNSHIPのひとつの成果だが、全体の活動の一部であることを説明。龍の仕事展の9日間は企業の顔としていくつかの課題を目指してきたが、D-INTERNSHIPは事前講習から始まり、企業研修、龍の仕事展までの一連の活動全般を振り返り、参加前の自分と違う自分に気づき、様々な体験から、これからの大学での学業や自分の人生に、新たな課題や目標をもつことの大切さを伝え、自己教育力の必要性を示した。また、自分の理解度を飾らず、自らの言葉をさがすことで自らを客観視できることが自己啓発力のスタートであることを伝えた。

② 第2回成果報告会・フォローアップセミナー 補講

10月19日(日)、倉敷天文台彰邦館を借りて成果発表会を行った。フォローアップセミナーでは前回同様に自己教育力・自己啓発力へ結びつく様に指導した。振り返りは1回より2回、回数を増やすことが大切である。その後も各大学で成果報告をした学生の内容は数段進歩していた。

(9) 評価票の作成

事前講習、企業研修、龍の仕事展、成果報告会・フォローアップセミナーの4つの事前・事後で学生を評価し、定性的評価も含め参加者全員の評価票を作成した。

7 今後の課題等

(1) 全体のタイムスケジュールの見直し

本年度は企業研修の期間が迫いやられ、特に企業側から長くして欲しい要望も出た。その為には6月には事前研修を終える必要があり、参加学生の締切を5月中旬までに終えるスケジュールが望ましい。

(2) 募集の段階

① 目的の明確化

参加学生、受入企業共にインターンシップの目的を事前に明確にする仕組みを設ける。

② エントリーシートの充実

参加学生が申込の際に記入するエントリーシートを充実させ、自己PRや大学での学びや活かせる専門技術や交通手段などを事前に把握することが望ましい。

③ 学生情報のスマート化

手書きのエントリーシートによる混乱は大きな時間的ロスを生むのでWEB上で申し込める仕組みを検討する。

(3) 事前研修の充実

事前研修は半日では少ないので、1日コースとして充実させる。龍の仕事展の意義や企業文化、地方ブランド戦略についても学べるものとしたい。ビジネスマナーなどよりマナーコミュニケーションに力を入れる。

(4) 直前研修の実施

企業研修を終えた学生たちが、龍の仕事展に入る前に、自らの課題や目標を発表する直前研修を新たに設ける。

(5) 龍の仕事展中の指導

成果報告会に学生たちが企業を呼べるように成果報告会を見据えた指導を行う。

(6) 龍の仕事展後の指導

プログラム後も学生と企業の関係継続が生まれるようにプログラムをブラッシュアップする。

(7) ふりかえりの繰り返し

成果報告が1度で終わらぬよう、2度、3度できる仕組みをさぐる。

8 実施状況

<p>龍の仕事展：朝のミーティング</p>	<p>龍の仕事展：活動風景</p>
<p>龍の仕事展：活動風景</p>	<p>龍の仕事展：夕方のミーティング</p>
<p>龍の仕事展：活動風景</p>	<p>龍の仕事展：活動風景</p>
<p>龍の仕事展：活動風景</p>	<p>龍の仕事展：活動風景</p>



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：夕方のミーティング



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：活動風景



成果報告会・フォローアップセミナー



成果報告会・フォローアップセミナー



成果報告会・フォローアップセミナー



成果報告会・フォローアップセミナー